

丸亀急配



リニューアルしたHPについて説明する中野課長

【香川】丸亀急配(中野昌一社長、香川県丸亀市)は、全国紙各社とパートナーシップを結んで香川県全域と愛媛県東予地区への新聞輸送を手掛けるほか、飲料のセンター業務から輸送まで一貫物流を担ってきた。現在はIT(情報技術)、食品、薬品、自動車部品などの荷物を扱うが、次世代の物流に向けた布石を着々と打っている。

その一つが、次の経営者の育成だ。日本通運で輸出入業務(乙仲)を経験した中野社長(63)の長男、智仁氏(30)が2017年5月に入社。現場で研修を積み、現在は企画営業部課長の職に就く。18年10月11〜17日に

行われた日本倉庫協会主催の海外倉庫業研修視察団に加わり、タイ、マレーシア、シンガポールの物流関連施設を見学し、見聞を広げた。中野課長は「現地は余った土地も多く、ダイナミックさを肌で感じた。視察団に加わることで人脈ができたし、見識の高いメンバーと有意義な情報交換もできた」と話す。

人材確保も重要な次世代戦略で、11月には若い求職者へアピールするためホームページ(HP)をリニューアル。写真を多用し、ビジュアルに訴えるコンテンツにした。採用情報では、社員紹介をしている。

その一方で、BCP(事業継続計画)対策の一環として、本社倉庫のプラントは蓄電機能も取り入れ、新新聞輸送にEV(電気自動車)を導入しているが、今後は蓄電率90%を誇る「丸亀うちわ」で有名。中野社長は丸亀商工会議所の

を強化していく方針だ。また、世代交代への準備が進む中、中野社長が力を入れているのが地域の貢献活動だ。丸亀市は全社員が求められる新聞や飲料の物流をメインとしてきたため、安全運行、品質向上、環境負荷低減を最優先の経営方針に掲げてきた。

2008年にいすゞ自動車車の車両運行・動態管理システム「MIMAMORI」を導入して省燃費・安全運行を徹底するとともに、01年に品質管理の国際規格ISO9001、06年には環境管理のISO14001、07年にGマーク(安全性優良事業所認定)を取得。世代が変わっても安全・品質・環境の最優先課題は堅持していく方針だ。(江藤和博)

次世代物流へ布石 倉庫耐震工事が完了



ットホームの耐震工事を実施中だ。これが終われば旧耐震基準構造建物の改修工事が終了する。南海トラフ地震などが発生しており、軽油、CNG、EVの3本立てにすることも、有事でも安定して燃料を確保するとともに、これまで以上に環境対策